

鳥取県内の生涯学習情報が満載！

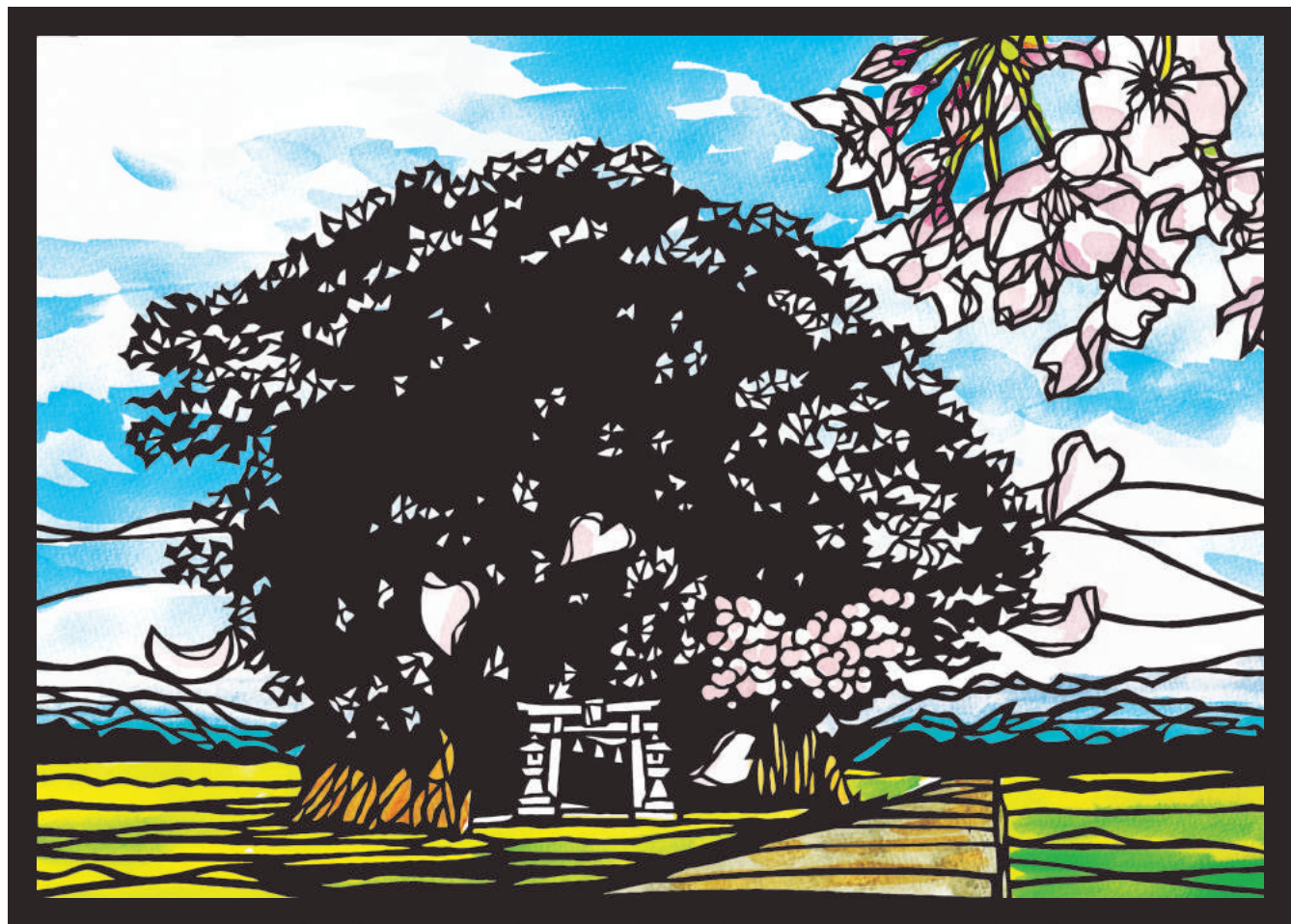
生涯学習  
とっとり  
vol.181  
2019.3

ページ  
1 特集

**伯州綿を子どもたちと栽培し、  
ふるさとを愛する心を育みたい**

子どもたちと綿をつくらう会

- 4 とっとり県民カレッジ連携  
生涯学習講座情報（3・4月）
- 20 とっとり県民カレッジで熱心に学ばれた皆さんを紹介します  
鳥取県家庭教育推進協力企業制度
- 21 むきばんだ女子考古部  
鳥取県立むきばんだ史跡公園
- 23 JICA が行う国際協力・国際理解教育に関する事業の一部  
を紹介します！  
鳥取県 JICA デスク
- 24 私たちの活動を紹介します！  
久松手話サークル
- 25 鳥取県立生涯学習センター（お知らせ）
- 27 山陰海岸国立公園 鳥取砂丘ビジターセンターがオープン！



『切り絵シリーズ』 きゃく 客神社 < こはら 小原神社 >（南部町）

広い田園風景の中にポツとまあるい森。一本の桜が迎えてくれる、別名トト口の森

絵・文：紙原 四郎 氏

鳥取県教育委員会発行



はくしゅうめん

伯州綿を子どもたちと栽培し、ふるさとを愛する心を育みたい

# 子どもたちと綿をつくろう会



校門前に広がる「渡っ子農園」

境港市立渡わたり小学校の児童と伯州綿を栽培し交流を深める「子どもたちと綿をつくろう会」の活動について、会長かどわきのりふみの門脇紀文さんと副会長の田中峰夫さんたなかみねおにお話を伺いました。

## 「伯州綿」という地域の素材を生かす

「伯州綿というすばらしい地域の素材で、子どもたちのふるさとを愛する心を育みたい」そんな想いをいただいていた門脇さん。綿を改良し綿の増産に貢献した浜田治郎吉はまた じろうきち※<sup>(1)</sup>がこの地の出身だったこともあり、伯州綿という地域の素材を生かした活動をしたいと、平成24年4月に有志15名で「子どもたちと綿をつくろう会」を結成しました。ほとんどのメンバーは、渡で生まれ育ち退職後に帰ってきたUターン組で、渡地区（渡町、森岡町、夕日ヶ丘）で暮らしています。近年、校区に境港市夕日ヶ丘分譲地ができ、子どもの数が増加。「元々はこの出身じゃなくても、渡で育って渡の小学校を出るので、子どもたちにとってはここが地元になる。伯州綿をとおして子どもたちに地元の歴史も伝えたい」と門脇さんは話します。



田中さん（左）と門脇さん（右）

## 笑顔いっぱい「渡っ子農園」

活動場所は、学校の校門前にある「渡っ子農園」です。初年度の平成24年度は6年生51名と伯州綿を育て、収穫した綿は風呂敷に加工し卒業記念として児童に贈りました。平成25年度からは3年生と活動しています。伯州綿の他にサツマイモを栽培。また、特別支援学級の児童と野菜を育てる年もあります。

綿は農薬や化学肥料を一切使わず、すべて手作業で栽培され、収穫した綿から種をとり、次の3年生の種まき用に引き継がれています。子どもたちは作業内容を覚えると自主的に動きます。

「子どもたちの笑顔を見るとうれしいし、農作業を教えるのは楽しいですね」と田中さん。門脇さんは、麦わら帽子をかぶって農作業をしていたのを、数年前から子どもたちと綿をつくろう会の緑色の帽子に変えました。この帽子をつけていると子どもたちが覚えてくれて、「門脇さんありがとうございます！」とってくれるようになりました。「活動を続けてきて思うことは、やっぱり子どもはかわいいということ。どの子もみんなかわいいです」と目を細めます。

収穫後は、綿の茎を使って「紙すき」を体験し、和紙わし灯笼とうろうや絵ハガキも作ります。「理科室の床が水で濡れたら一生懸命に拭く子もでてくるし、何もしない子はいないです」と感心する田中さん。子どもたちは自然と役割分担を決めて作業を進め、家でも手伝いをするようになります。



## 物を大切に作る心も育てたい

「白い綿の中に種が入っています。つまり、子どもたちを種だとすると、お父さんお母さん、おじいさんおばあさん、先生、地域の人が綿」と話す門脇さん。「あなたたちは、ふわふわの綿の中でみんなに守られ支えられているんだよ」と子どもたちに伝えます。さらに「今の時代、服でも何でもすぐに捨ててしまう。種をまいて収穫し、風呂敷などの製品になるまでを自分たちで体験することで、こんなに大変なら自分の服も大切にしようと思うわけです」と続けます。

綿からは絨ができ、茎からは紙ができて、種からは油がとれ、捨てる場所のない伯州綿。「今後は、種から油をとり、石鹸作りにもチャレンジしたいですね。学校の手洗い場でその石鹸で手を洗わせたいです。やっぱり自分で作ったものは大事にしますよ」と意欲をみせる門脇さん。

## おじいさんおばあさんとも話ができる

綿をつくろう会のメンバーは学校行事にも毎年招かれます。総合的な学習の時間では子どもたちが伯州綿について学んだことをまとめた研究発表を行い、学習発表会では伯州綿についての劇を披露します。

子どもたちは伯州綿を栽培し学習を深める中で、この地域が伯州綿の一大産地であったこと、弓浜絨が文化として根付いていたことを初めて知ります。学習したことを家に帰って話をすると、おじいさんおばあさんから「昔はみんな綿を栽培していた」「水やりが大変だった」「おばあさんがガットンゴットンって綿を紡いでいた」などの話を聴きます。昔のことや地域の歴史についておじいさんおばあさんとも話ができ、綿をとおして世代間交流も生まれています。

活動をスタートして今年で7年目。学校と信頼しあい、「伯州綿」という地域の素材を教育に活かす「子どもたちと綿をつくろう会」。この活動により子どもたちのふるさとを愛する心が育まれています。



## 綿の生長する姿



開花（7～8月）

オクラの花に似た黄色い花が咲きます。



コットンボール（8月）

花が散った後には、コットンボールとよばれる実がなります。



収穫（9～12月）

コットンボールが成熟すると、実がはじけ、中から白い綿が顔を出します。



種まき



収穫した綿で、平成24年度は風呂敷、平成25年度は座布団、平成26年度はタオルに加工



草丈が伸びないようにして、たくさん実をつけるための摘芯作業

伯州綿は、今から300年以上前の江戸時代前期に境港市の弓ヶ浜半島で栽培が始められ、北前船<sup>※(2)</sup>によって全国に知れ渡るようになりました。しかし、外国産綿が国内で流通されるようになると綿栽培は衰えていきました。伯州綿は、境港市の特産品である「弓浜絨」<sup>※(3)</sup>の主原料として用いられ、繊維が太く弾力性に富み、保温性にも優れ、絨はもちろんのこと布団の中綿としての評価も高いです。平成20年からは伯州綿の復活を目指し、一般財団法人境港市農業公社が市内の耕作放棄地を利用して試験的に栽培を始めました。また、平成23年度からは地域住民が栽培に参加する「伯州綿栽培サポーター制度」もスタートしました。

※(1) 浜田治郎吉

西伯郡渡村字森岡（現 境港市森岡町）で生まれた浜田治郎吉（文政7年～明治35年）は、森岡綿と呼ばれる良質な綿の育種に成功。渡公民館の前に、その功績を称えた記念碑があります。

※(2) 北前船

江戸時代から明治時代にかけて、東北・北海道地方から大阪までの間を日本海～瀬戸内海を港伝いに往復した船のこと。

※(3) 弓浜絨

伯州綿を紡ぎ、藍で染め織り上げたものが「弓浜絨」です。250年前から伝承されており、農家の女性たちが家族のために織った素朴な絨は、深い藍色の地に白抜きの柄が映える、ざっくりとした風合いが特徴です。昭和50年には国の伝統産業工芸品に、昭和53年には県の無形文化財に指定されました。

収穫した綿は、「綿繰り」という作業で種と綿に分離します。

できた糸は渡産の綿を40パーセント含んだブランド糸で、子どもたちによって「ワタリチャイルド」と名付けられています。

（写真提供：境港市役所商工農政課）



## 渡の宝物、伯州綿

渡小学校の3年生は、境港市で昔から栽培されてきた伯州綿について4月から学んできました。地域の「子どもたちと綿をつくろう会」のみなさんや市の商工農政課・農業公社、地域おこし協力隊の方々のお話やインタビューから、その価値に気付き、自分たちの手で伯州綿を育てたいと栽培を始めました。一つの穴に3粒の種を入れる種まきの仕方、芽が出るまで水やりを欠かさないこと、こまめな雑草ぬき、草丈が伸びすぎないようにするための摘心、伯州綿の黄色い花がしぼんでオレンジになりコットンボールができること等、様々なことを地域の方から教わり、また一緒に体験していく中で、発見や学びを楽しんでいました。国産綿である伯州綿の希少価値や他の綿にはないよさを知る中で、多くの人に伯州綿のよさを知ってもらいたい、育ててもらいたいという願いを強くした3年生。綿織りや糸紡ぎ、機織りの弓浜体験でも伯州綿からできる県の伝統工芸品の素晴らしさや作る人の願い・苦勞に気付いて、さらによさを広めようと意欲を高めました。また、伯州綿の茎を使った紙すき体験で和紙作りに取り組み、伯州綿には捨てる場所がないことも知りました。境港市が主催した「てぬぐいひらひら」展では、紙すき体験で作った和紙の絵八ガキや灯籠と、学んだことをまとめた大型新聞を出品しました。11月には、校内において学習発表会で「広めよう！わたしたちの宝物」の劇を発表しました。

どの活動も、ふるさと渡の町・境港市が大好きになった子どもたちの思いからできた活動です。畑や畝づくり、毎日のように畑の手入れに来てくださって子どもたちの活動に寄り添ってくださった地域の方々、市の皆さん、たくさんの方々のおかげで子どもたちは学びの楽しさを得ることができました。本当にありがとうございました。

子どもたちは、多くの人との関わりから町への愛着と誇りを深め、自分たちの町を大切にしようとする心を持ちました。伯州綿学習は、学校と地域をつなぎ、子どもたちの心を大きく豊かに育んでくれました。

(寄稿：3年生担任 野川 佳代さん)



小学校の理科室で、綿の茎を使って「紙すき」を体験  
和紙灯籠や絵八ガキを作ります。



できあがった和紙の絵八ガキ。  
境港らしい絵柄も！



綿を紡ぐ体験



伯州綿について学んだことを  
まとめた大型新聞



学習発表会で、伯州綿についての劇を発表

<連絡先> 子どもたちと綿をつくろう会  
090-9062-7186 (会長 門脇さん)